

かけ橋

まだ見ぬ君へ…

吉原第三中学校では、昭和六十年から長野県豊丘村とよおかの農家に宿泊し、農作業を体験する勤労体験学習を行っています。その活動を側面から支援し、豊丘村の皆さんと、交流を進めている「豊友会ほうゆうかい」を紹介します。

豊友会

豊友会は吉原三中PTAのOBを中心に平成七年十月に発足。現在の会員は約百六十人。中には、中学生のとき勤労体験学習で実際にお世話になった人もいるそうです。

豊友会会長の望月恵子さん（宇東川西町）は、「農作業の忙しいときでも、生徒たちを快く受け入れてくれる豊丘村の皆さんへ、何かの形にして感謝の気持ちを伝えたいという思いが一つになり、この会が発足しました。それ以後、豊丘村を何度も訪れるなどして交流を進め、今

ではお互いの気持ちの中に入り込めるほど親しい交流になっています。

特に、毎年十一月に豊丘村で開かれている『とよおかまつり』には、富士市の特産品であるトイレットペーパーなどを持参して参加。豊丘村でも富士市から来る私たちを歓迎してくれます。また、豊丘村の皆さんが昔の体験学習のときの写真を見せながら話が弾むときなど、距離や時間を越えた心のつながりを感じますね。

ことし豊丘村でも、受け入れ農家を中心にした『ふじ友の会』が発足するほどになりました。これからも、いろいろな機会を通じて、豊丘村の皆さんと心と心の交流を進めていきたいと思います。そしてこの交流が、いろいろな面で皆さんの支えになってくれればうれしいですね」と話してくれました。



▲豊友会の皆さん



▲七月初め、富士市を訪れた豊丘村の皆さんは、吉原三中の生徒と楽しく交流



富士市アマチュア無線非常通信協力会の会長を務める

たかざわ 高澤 かつひこ 勝彦さん
(横割)



高澤さんは、アマチュア無線歴がことしでちょうど四十年を迎える大ベテラン。「富士市アマチュア無線非常通信協力会」は、電話回線が不通になり、情報伝達に支障を来した阪神淡路大震災の教訓を生かそうと、三年前に発足。現在、約二百二十人がその会員として、非常時に備えたボランティア活動を進めています。

高澤さんは、「アマチュア無線を始めたきっかけは、無線に

詳しい先輩と知り合えたことや、機械いじりがとても好きだったことからです。アマチュア無線は、いろいろな人と交信できる楽しさや、小さい出力でどこまで遠くの人と話ができるかというおもしろさがあります。今でも、初めて外国の人と通信できたときの喜びは忘れられませんね。

会では、この九月一日に富士海岸で行われる、静岡県・富士市総合防災訓練にも参加する予定です。これからも会員の皆さんと協力し、活動を進めていきたいと思えます。また、私自身も無線を使つての画像送信に興味があります。その分野についてもっとよく知り、防災訓練などでも積極的に活用していきたいですね」と話してくれました。



▲防災訓練で活躍する協力会の皆さん